

東京工業高等専門学校	開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	化学Ⅵ
科目基礎情報				
科目番号	0111	科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電子工学科	対象学年	3	
開設期	後期	週時間数	2	
教科書/教材	(東京書籍) 改訂化学・改訂ニューステップアップ化学・図説化学			
担当教員	中川 修			
到達目標				
物質は低分子量の化合物と分子量が非常に大きい高分子化合物に分類される。まず、高分子化合物がどのような化合物であることを説明できるようになること。次いで、高分子化合物をさらにいくつかのグループに分類できるようになり、それぞれの性質や反応性を説明できるようになること。高校の教科書に記載された高分子化合物の基本的な知識の定着が目標となる。				
ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安
高分子化合物	高分子化合物を分類し特徴を説明することができる。	高分子化合物を分類し、特徴を挙げることができる。	高分子化合物の分類ができる。	高分子化合物の分類ができない。
天然高分子化合物 (糖類)	単糖類、二糖類など糖類の分類ができ、構造およびそれらの性質を説明できる。	単糖類、二糖類などの糖類の分類ができ、構造の違いがわかる。	単糖類、二糖類などの糖類の分類ができる。	単糖類、二糖類などの糖類の分類ができない。
天然高分子化合物 (アミノ酸、タンパク質)	アミノ酸とタンパク質の性質や反応を理解し、たんぱく質の構造について説明することができる。	アミノ酸、ペプチド結合、タンパク質について説明できる。	アミノ酸とはどのような物質であることを説明できる。	アミノ酸とはどのような物質であることを説明できない。
天然高分子化合物 (核酸)	核酸の構造を理解しDNAの構造とはたらきについて説明できる。	核酸の構造を理解していて、DNAについて説明ができる。	核酸の構造を説明できる。	核酸の構造を説明できない。
合成高分子化合物	合成高分子の分類ができ、代表的な物質を挙げることができる。また、合成方法も説明することができる。	合成高分子の分類ができ、それぞれの代表的な物質を挙げることができる。	合成高分子の分類ができる。	合成高分子の分類ができない。
学科の到達目標項目との関係				
教育方法等				
概要	3年生前期までに学習した化学Ⅰ～化学Ⅴ、ものづくり基礎工学とともに、化学および工学の基礎科目として位置づけられる。高分子化合物の分類と特徴について学習しながら、天然高分子化合物や合成高分子化合物などさまざまな高分子化合物の構造と性質について学ぶ。			
授業の進め方・方法	高校の検定教科書を使用して、単元ごとに理解すべき要点を説明していく。具体的には、第6編「高分子化合物」を学習する。毎回教科書1節分(5～10ページ程度)の目安で進めていく。問題集も購入済みであるので、予習・復習に役立てること。各学科の授業で扱う基礎的な内容は同じであり、下記の授業計画に示している。さらに発展的な内容を学科の専門性に応じて付け加えることもある。			
注意点	化学Ⅰ～化学Ⅴの内容を適宜復習すること。講義用ノートを準備し、授業に集中すること。副教材の問題集等を利用して予習・復習を欠かさず、自学自習の習慣を確立させること。			
授業の属性・履修上の区分				
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用	☒ 遠隔授業対応	☒ 実務経験のある教員による授業
授業計画				
		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	ガイダンス、有機化合物の復習	有機化合物の構造や分類について説明できる。
		2週	1章 天然高分子化合物 高分子化合物の分類と構造	高分子化合物をいくつかのグループに分類し、高分子化合物の構造的な特徴を挙げることができる。
		3週	1章 天然高分子化合物 単糖類・二糖類	糖類を分類でき、単糖類および二糖類の代表的な物質を挙げ、その性質を説明できる。
		4週	1章 天然高分子化合物 多糖類	多糖類の代表的な物質を挙げ、性質を説明できる。
		5週	1章 天然高分子化合物 アミノ酸	アミノ酸の種類を挙げ、ペプチド結合を説明できる。
		6週	1章 天然高分子化合物 タンパク質	タンパク質の構造と反応を説明できる。
		7週	1章 天然高分子化合物 前半のまとめ	酵素のはたらき、特徴を説明できる。中間試験までの学習内容の要点を整理する。
		8週	中間試験	前半の学習内容を確認する。
	4thQ	9週	中間試験の返却と解説	中間試験を返却し、解説する。前半の学習内容の理解度を確認する。
		10週	1章 天然高分子化合物 核酸	核酸の構造とはたらきについて説明できる。
		11週	2章 合成高分子化合物 合成高分子の種類と特徴・重合反応	合成高分子の特徴を低分子化合物と比較しながら説明し、いくつかのグループに分類することができる。また、重合反応の種類を説明できる。
		12週	2章 合成高分子化合物 合成繊維	代表的な合成繊維の名称と合成方法を説明できる。
		13週	2章 合成高分子化合物 プラスチック	熱可塑性樹脂と熱硬化性樹脂の差異を構造と性質の観点から説明できる。
		14週	2章 合成高分子化合物 ゴム	天然ゴムと合成ゴム、それぞれの構造を理解し、性質を説明することができる。
		15週	3章 高分子化合物と人間生活 後半のまとめ	高分子化合物の新しい機能や処理方法を説明できる。中間試験後の学習内容の要点を整理する。
		16週	学年末試験返却	中間試験後の学習内容の定着度を確認する。
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標				

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	自然科学	化学(一般)	化学(一般)	代表的な金属やプラスチックなど有機材料について、その性質、用途、また、その再利用など生活とのかかわりについて説明できる。	3	後14
				物質の三態とその状態変化を説明できる。	3	後10
				共有結合について説明できる。	3	後1
				構造式や電子式により分子を書き表すことができる。	3	後3,後4,後5,後6,後7,後11,後12,後13
				化学反応を反応物、生成物、係数を理解して組み立てることができる。	3	後11,後12,後13
評価割合						
			試験	課題	合計	
総合評価割合			80	20	100	
基礎的能力			80	20	100	